

- 内容 : 就職活動状況の定点調査
 実施期間 : 2013年4月25日～2013年4月30日まで
 調査対象 : 2014年卒業予定の全国大学4年生及び院2年生
 調査方法 : Web上のアンケートフォームより入力
 モニター属性データ

カテゴリー	モニター登録数	有効回答数	有効回答率
文系男子	1,007	274	27.2%
理系男子	1,204	401	33.3%
文系女子	1,009	253	25.1%
理系女子	1,210	329	27.2%
総計	4,430	1,257	28.4%

カテゴリー	モニター登録数	有効回答数	有効回答率
関東地区	1,740	489	28.1%
関西地区	1,060	301	28.4%
東海地区	370	108	29.2%
上記以外のエリア	1,260	359	28.5%

カテゴリー	モニター登録数	有効回答数	有効回答率
文系グループ1	214	83	38.8%
文系グループ2	362	97	26.8%
文系グループ3	625	181	29.0%
文系グループ4	721	166	23.0%

カテゴリー	モニター登録数	有効回答数	有効回答率	
学部	理系:機電系	194	49	25.3%
	理系:情報系	312	65	20.8%
	理系:土木・建築系	174	40	23.0%
	理系:化学系	307	84	27.4%
	理系:その他理系	532	101	19.0%
院	理系:機電系	200	92	46.0%
	理系:情報系	128	61	47.7%
	理系:土木・建築系	105	42	40.0%
	理系:化学系	228	84	36.8%
	理系:その他理系	328	112	34.1%

- * 文系グループ1: 全国旧帝国大
 * 文系グループ2: 早・慶・上智・ICU・関関同立
 * 文系グループ3: 法政・明治・立教・青山学院・中央・学習院・南山・西南学院・全国国公立大
 * 文系グループ4: 上記以外の全国私立大

【4月のTOPICS】

～選考本格スタートで内々定を受けた学生が一気に増加～

大手企業の選考が本格的に開始となった4月は、最終面接を受けた学生が5割を超え、内々定を受けた学生も全体の4割に達した。またモニター学生の4分の1が内々定を受けて活動を終了している。一方で活動を継続する学生が再度企業を探し始める動きは、エントリー数の減少などをみると例年よりもやや緩慢な印象がある。但し、学生は中小企業へ視野を広げて活動する傾向にあり、着実に新たな企業へのアプローチを行っている。(5ページ参照)
 なお、志望業種や志望職種が「はっきり決まっている」とする学生が6割存在することから、今後採用を継続する企業は、ある程度学生の志向に合わせながら再度自社を認知してもらう機会を増やしていくことが必要になるだろう。

- 理系院生の30.9%「就職のための推薦状が出た」、学部生の3倍超え (P.6)
- 目指す役職、男子は「役員」、女子は「特に出世したいとは思わない」がトップ (P.9)
- 「3月説明会開始・8月選考開始」のスケジュール、「不利になると思う」が50.8% (P.9)
- グループディスカッションにいい印象を持った理由、「他学生との意見交換が刺激に」(P.10)
- 適性検査・能力検査のピークは「3月前半」、WEBテストは例年よりも前倒し傾向 (P.11)

■ 集計方法

全体の回答率を算出するにあたり、有効回答数の文理男女構成比を、2014年3月卒業予定の大学生・大学院生の比率と等しくする為、文部科学省の学校基本調査を基に、ウエイトバック集計を行っている。基準数値は2012年公表の平成24年度学校基本調査より、大学3年生・院1年生の在籍数から男女比を参照している。文理区分については文部科学省・厚生労働省共同調査による「大学等卒業予定者の就職内定状況調査」の分類に準拠。

※ウエイトバック集計とは
 アンケート回答者の属性構成比率が実際の属性比率と乖離している場合、構成比に合わせて重み付けして集計すること。

■ □各種調査はWEB上でも順次公開中！ □ ■

新卒採用人事担当者のための採用支援サイト 採用サポネット <http://saponet.mynavi.jp/>

■ □本資料について □ ■

本資料に掲載のデータ、図版等の無断転載を禁じます。資料のご利用やご質問等に関しては下記までご連絡ください。

株式会社 マイナビ 就職情報事業本部 HRリサーチセンター

TEL: 03(6267)4571 / E-mail: hrrc@mynavi.jp

INDEX

【定点調査】 ■1:4月の活動状況

■2:エントリー状況、セミナー参加やエントリーシート提出状況、就活費用

- (1) アンケート回答者全体の平均エントリー社数
- (2) アンケート回答者全体のセミナー参加・エントリーシート提出状況
- (3) 4月の就活費用

■3:自己分析・業界研究・仕事(職種)研究・企業研究について

- (1) 自己分析の進捗状況、業界・職種・企業の絞込み状況
- (2) 自己分析の方法を何から学んだか・業界研究・仕事(職種)研究・企業研究に用いたもの

■4:活動の感触・就職観

- (1) 「内定」を取る自信
- (2) 就職活動を始めた時点と現在での活動に対する感触
- (3) 厳しいと思う理由(複数回答)
- (4) 1日のうち就職活動に費やしている時間
- (5) 現時点で不安があるか
- (6) 就職活動で不安に思う要因
- (7) この時期いちばん注力している就職活動の内容
- (8) 現在の活動は【中小企業中心or大手企業中心】

■5:【理系】4月の活動状況

- (1) 理系学生の活動状況
- (2) 企業への応募方法
- (3) 現時点での1日の時間の使い方
- (4) 現在の専攻を就職後も活かしたい割合(0~10割)

【追加調査】 ■6:現在の就職活動とその志向について

- (1) 1週間のうち就職活動に割く日数
- (2) 1週間の就職活動スケジュールはどのように感じているか
- (3) 今後企業を探す方法(複数回答)
- (4) 志望度が同じ企業で予定が重なった場合、何を基準に優先するか
- (5) これまでの活動で「この会社に決めた!」と思った瞬間は
- (6) これまでの活動で「この会社NG!」と思った瞬間は
- (7) 企業選択の際に重視すること
- (8) 女性の役員がいる企業の印象
- (9) 今後の会社人生でどの役職を目指して働きたいか

特別設問 (10) もし「3月説明会開始・8月選考開始」のスケジュールで行われた場合、現在と比べて有利だと思うか

■7:グループディスカッションについて

- (1) グループディスカッションの経験
- (2) 選考でグループディスカッションを行うことに対する印象
- (3) 良い印象を持った理由
- (4) 悪い印象を持った理由
- (5) グループディスカッションで主に希望する役割
- (6) グループディスカッションは選考方法として得意か不得意か
- (7) グループディスカッションで一番心掛けていること

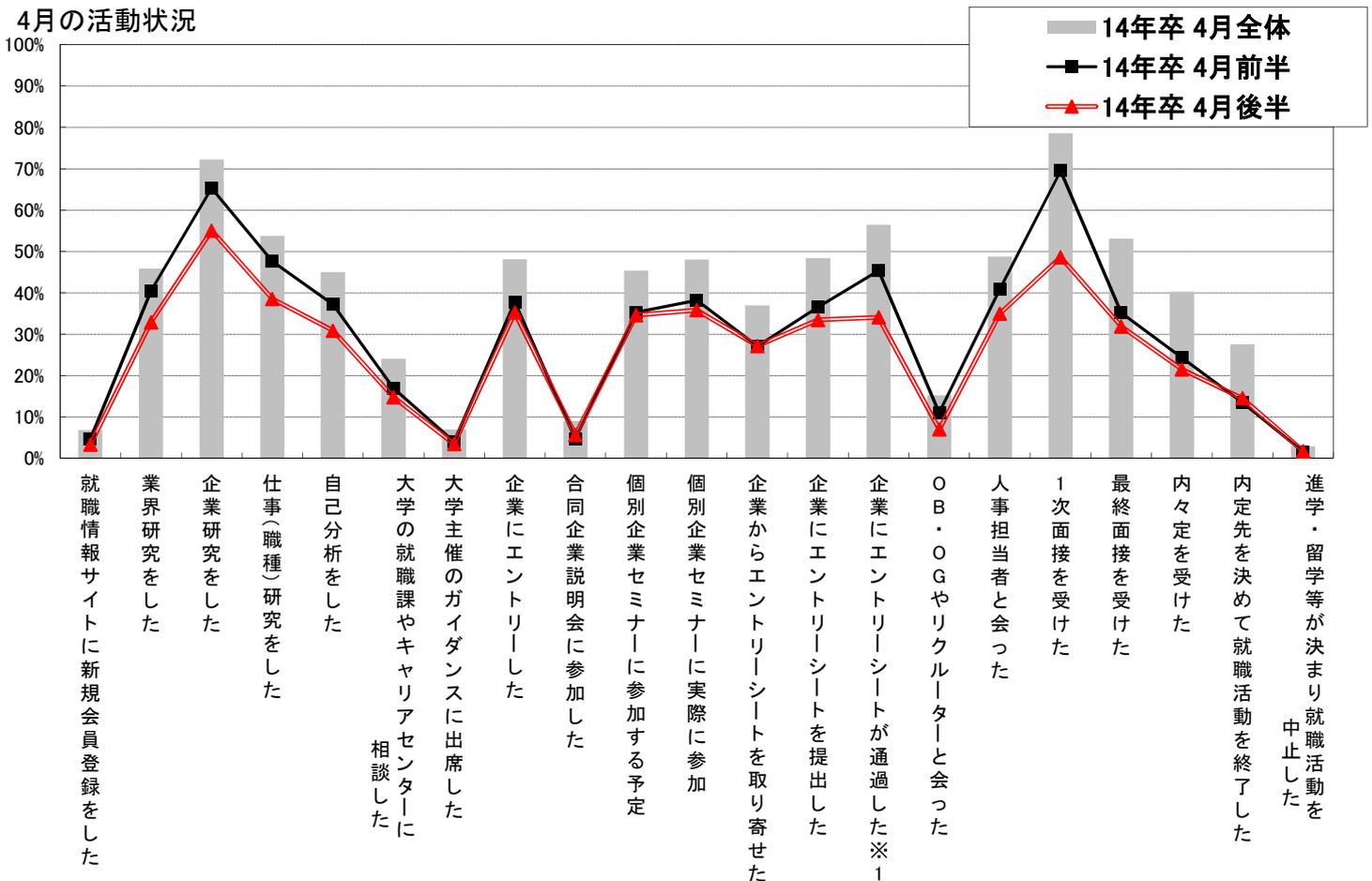
■8:適性検査・能力検査について

- (1) これまでに適性検査・能力検査を受けたことがあるか
- (2) いつ頃受検したか(複数回答)
- (3) 今までに適性検査・能力検査を受検した社数
- (4) 今までに適性検査・能力検査を通過した社数
- (5) (紙ベースの)適性検査・能力検査を受ける際、どちらが受検しやすいか
- (6) (WEBベースで)受検した際に与えられた回答期間は

※調査結果は、小数点第2位を四捨五入しております。そのため、グラフ及び表の和が100.0%にならないものがございます。予めご了承ください。

■1:4月の活動状況

4月の活動状況は多くの項目で前月の活動割合を下回っており、全体的に落ち着いてきている。一方、「1次面接を受けた」が78.6%、「最終面接を受けた」が前月比32.5pt増の53.1%と選考が進んでいる。また、「内々定を受けた」が前月比30.3pt増の40.3%、「内定先を決めて就職活動を終了した」が前月比23.9pt増の27.5%と大幅に増加しており、例年よりも早くに内定出しが行われていると推察される結果となった。



	14年卒			13年卒※2	
	4月全体	4月前半	4月後半	4月前半	4月後半
就職情報サイトに新規会員登録をした	6.8%	4.6%	3.3%	1.6%	2.0%
業界研究をした	45.9%	40.4%	32.9%	46.6%	40.0%
企業研究をした	72.2%	65.3%	55.0%	71.4%	62.2%
仕事(職種)研究をした	53.7%	47.6%	38.5%	54.0%	48.6%
自己分析をした	45.0%	37.1%	30.9%	48.5%	41.4%
大学の就職課やキャリアセンターに相談した	24.0%	17.0%	14.8%	18.6%	17.0%
大学主催のガイダンスに出席した	7.0%	4.0%	3.4%	4.5%	4.0%
企業にエントリーした	48.1%	37.7%	35.2%	41.0%	37.8%
合同企業説明会に参加した	9.0%	4.6%	5.6%	2.4%	5.9%
個別企業セミナーに参加する予定	45.3%	35.3%	34.6%	37.8%	39.3%
個別企業セミナーに実際に参加	48.1%	38.2%	35.8%	35.1%	36.3%
企業からエントリーシートを取り寄せた	37.0%	27.1%	27.2%	27.3%	25.8%
企業にエントリーシートを提出した	48.4%	36.5%	33.5%	39.9%	35.3%
企業にエントリーシートが通過した※1	56.4%	45.3%	34.1%	-	-
OB・OGやリクルーターと会った	15.2%	11.0%	7.0%	7.8%	4.9%
人事担当者と会った	48.8%	40.8%	35.0%	45.6%	39.7%
1次面接を受けた	78.6%	69.5%	48.6%	73.0%	55.5%
最終面接を受けた	53.1%	35.1%	31.8%	31.8%	29.3%
内々定を受けた	40.3%	24.4%	21.5%	20.3%	17.3%
内定先を決めて就職活動を終了した	27.5%	13.5%	14.5%	12.0%	20.0%
進学・留学等が決まり就職活動を中止した	2.9%	1.6%	1.7%	1.4%	1.9%

※1 2014年卒から項目追加

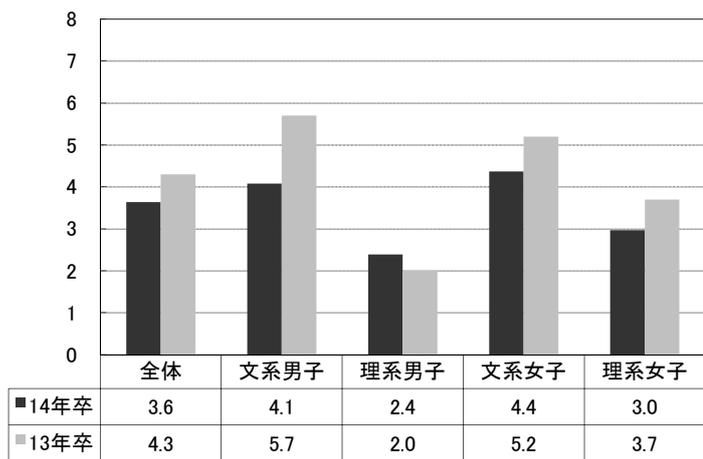
※2 2014年卒より調査方法を変更したため、2013年卒の数値は参考値としてご覧ください。

■2: エントリー状況、セミナー参加やエントリーシート提出状況、就活費用

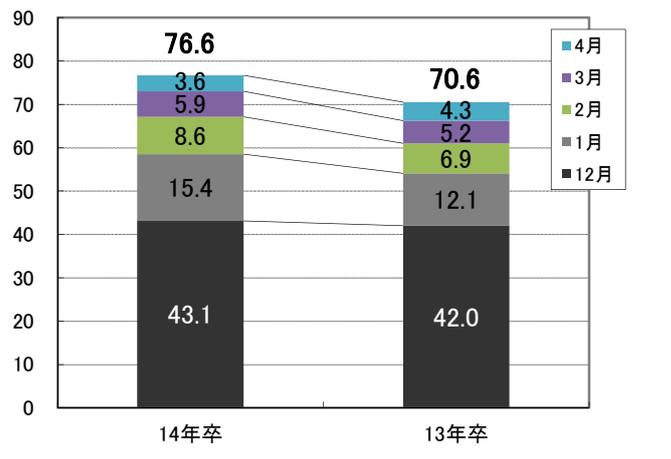
4月の平均エントリー数は前年同月比0.7社減の3.6社となり、2014年卒の調査では初めて前年同月比を下回った。文理男女別でもそれぞれで減少に転じている。4月までの累計エントリー数は76.6社となり、前年同月と比較して6.0社上回っている。その他の活動量では、エントリーシートの通過社数が前月から2.8社減の1.7社となっていることから、エントリーシートの結果の大半が3月には決しており、3月がピークだったことがわかる。エントリーや個別企業セミナーの参加社数が前年並みであるのに対し、選考を受けた社数は前年比0.9社増の6.3社となった。

4月の就活費用の平均は、就職活動を終了する学生が出てきたため「交通費・宿泊費」が前月比1,081円減の20,337円、「その他(スーツや書籍など)」が前月比995円減の3,228円と、ともに先月より減少した。しかし、地域別で見ると、関東・関西・東海以外の「その他」エリアでは「交通費・宿泊費」が依然3万円を超えており、活動を継続する学生にとっては引き続き大きな負担となっているようだ。

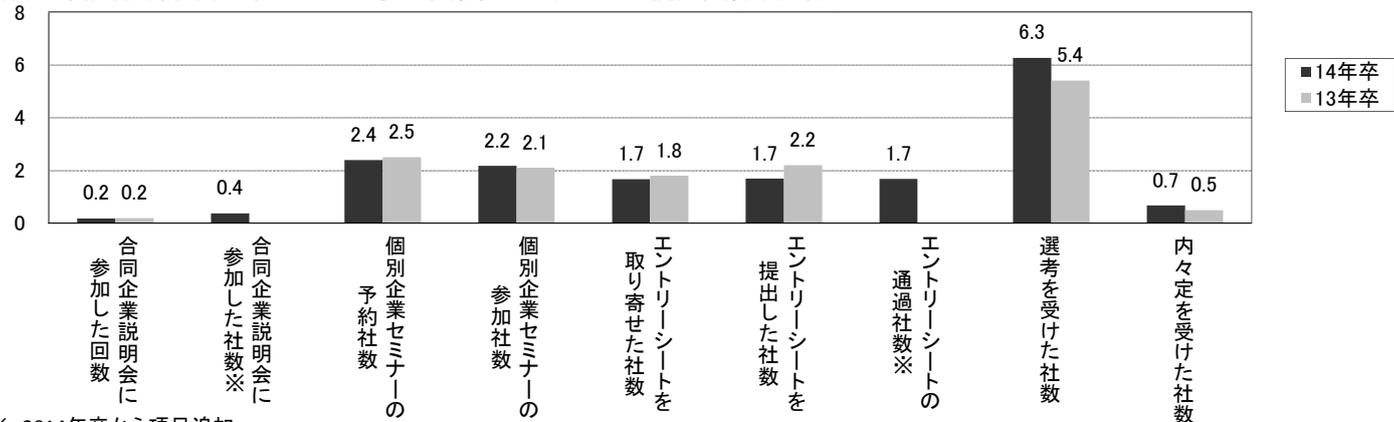
4月平均エントリー数 【単位:社】



4月までの累計エントリー社数 (平均) 【単位:社】

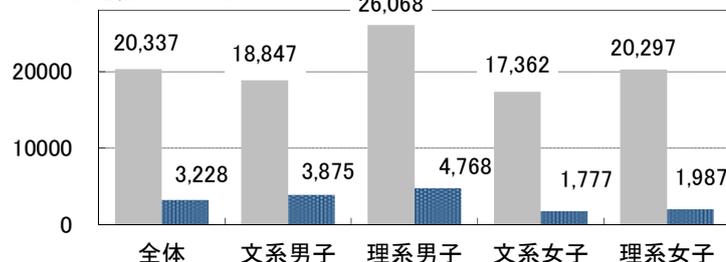


合同企業説明会、個別企業セミナーの参加社数、エントリーシート提出社数(平均)

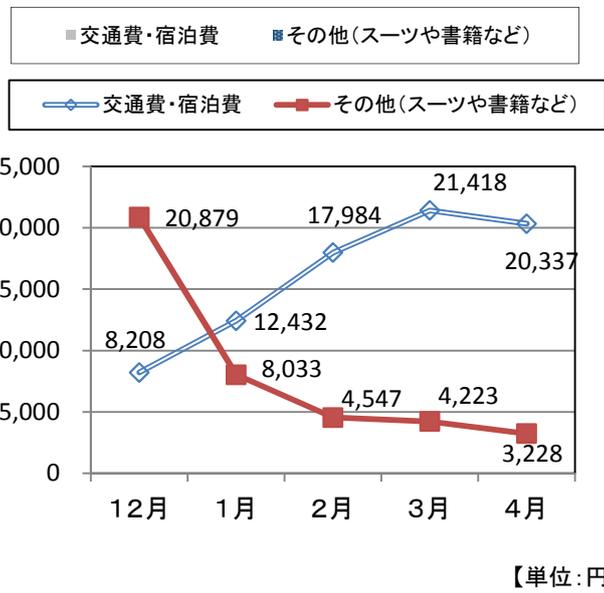
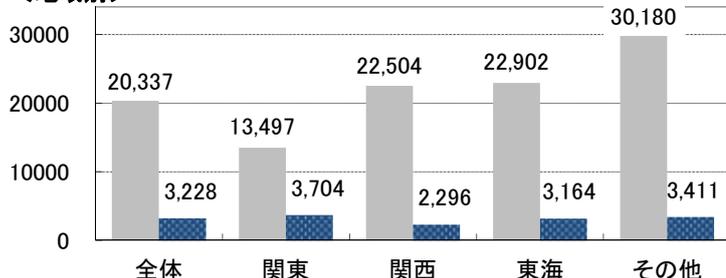


※ 2014年卒から項目追加

4月の就活費用(平均)



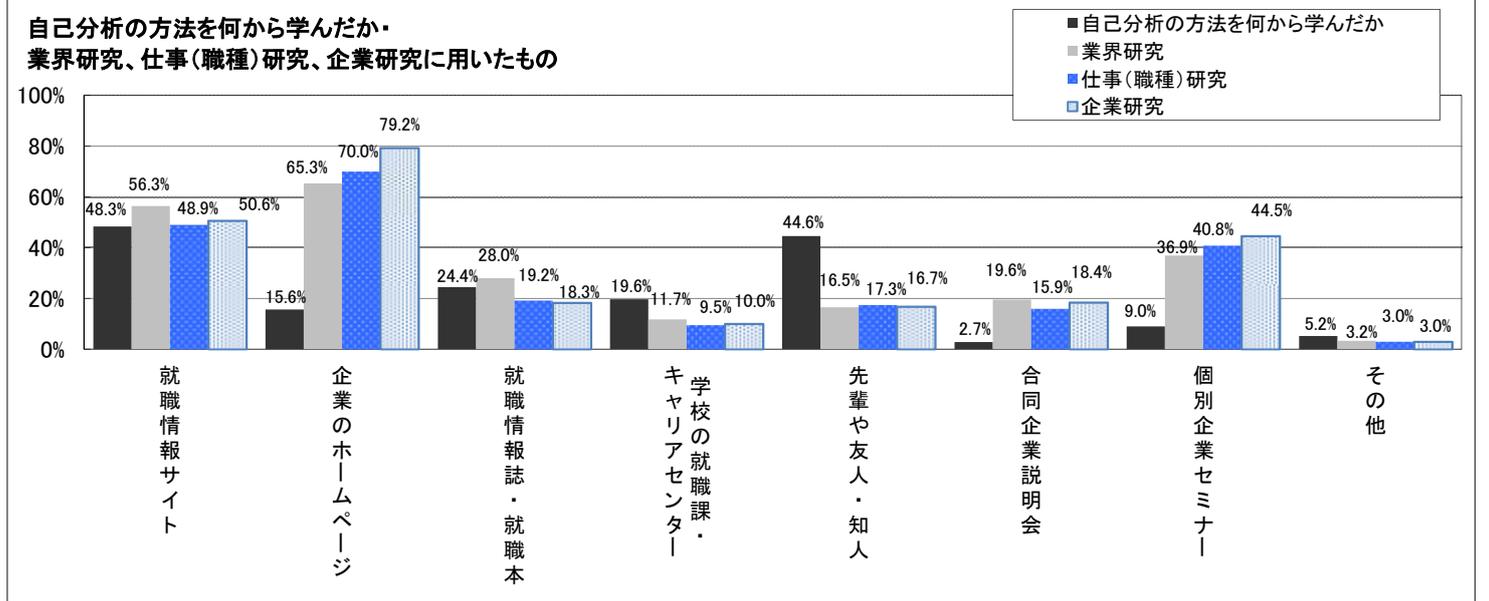
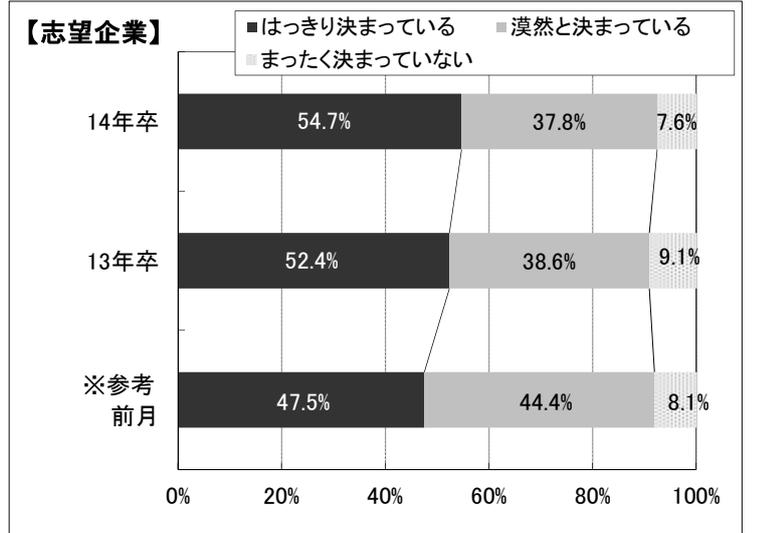
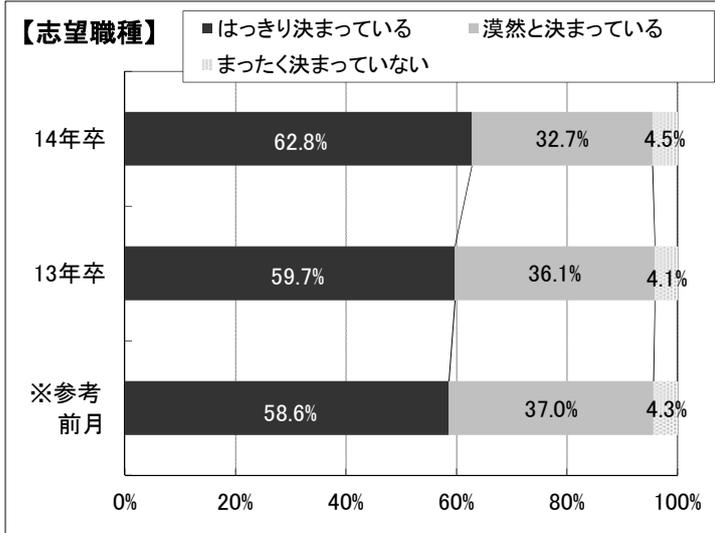
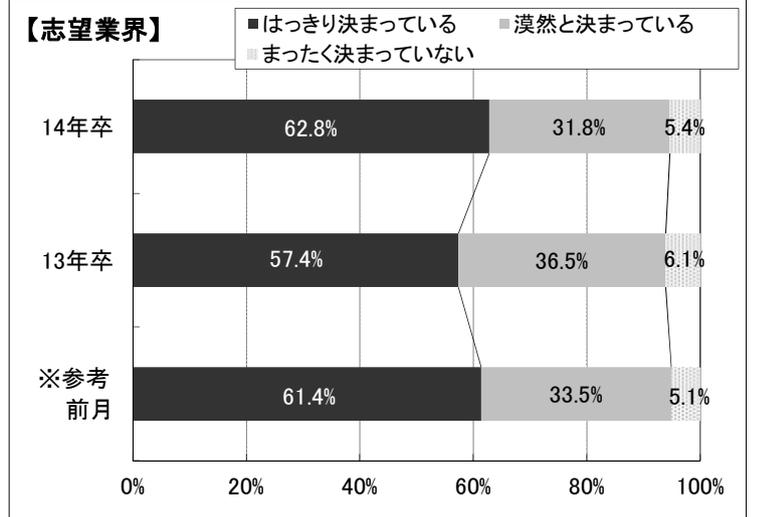
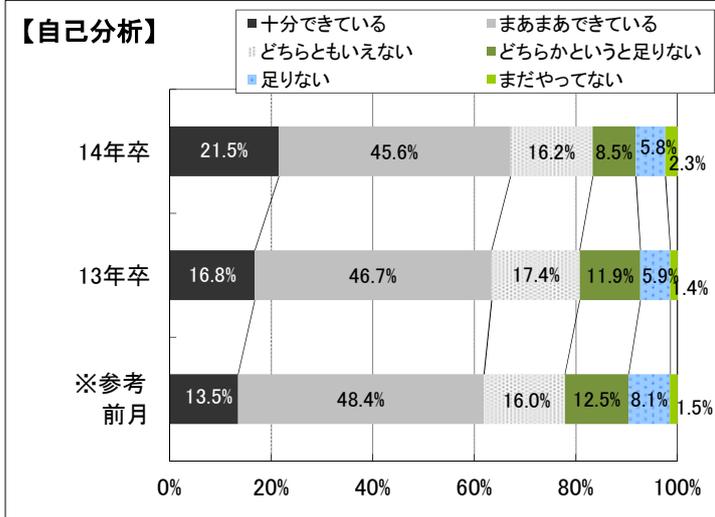
<地域別>



■3: 自己分析・業界研究・仕事(職種)研究・企業研究について

自己分析や業界・職種・企業の絞込みは徐々に進捗しているようだ。自己分析については「(十分+まあまあ)できている」が前月比5.2pt増の67.1%となった。志望業界、志望職種の絞込みも「はっきり決まっている」の割合が順調に伸びてきており、先月進捗が遅れていた志望企業の絞込みについても「はっきり決まっている」が前月から7.2pt伸びて54.7%と半数を超えた。志望企業以外から内々定を得ることで余裕を持って志望企業を絞り込めるようになった学生も多いのではないだろうか。自己分析、業界研究、仕事(職種)研究、企業研究に用いたものでは、前月並の項目が多かったが、「個別企業セミナー」はそれぞれ3.0pt減、8.6pt減、7.9pt減、9.2pt減となった。今後は選考にスムーズにつなげるため、セミナー参加後に希望者のみ適性検査や選考の実施を合わせて告知するという工夫が必要になりそうだ。

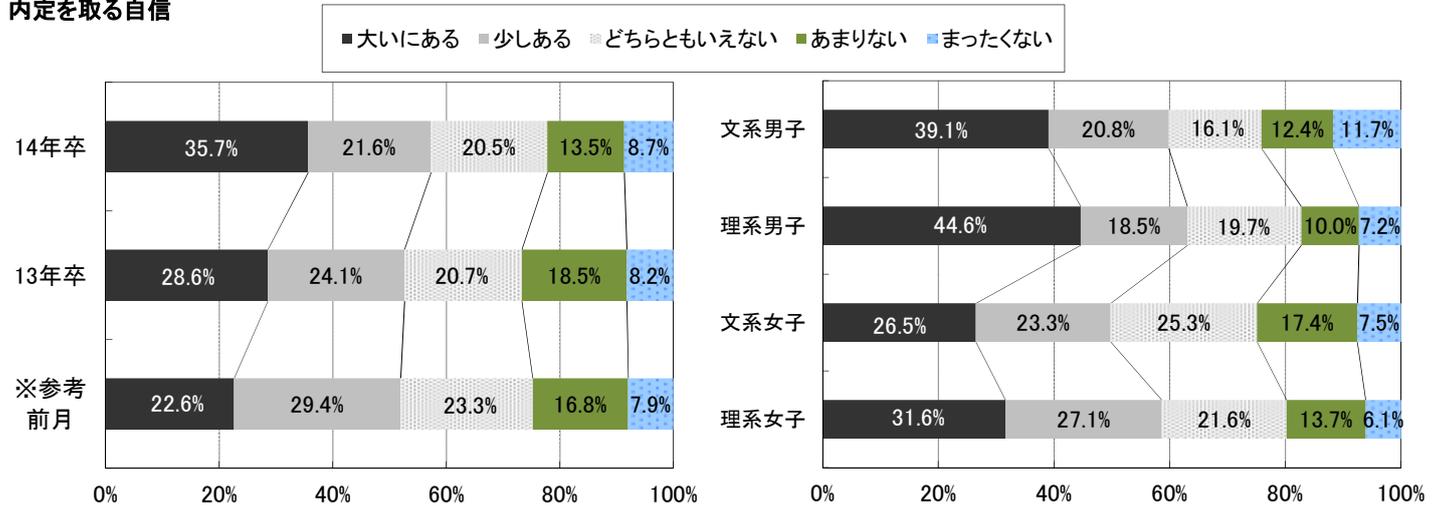
自己分析の進捗状況、業界・職種・企業の絞込み状況



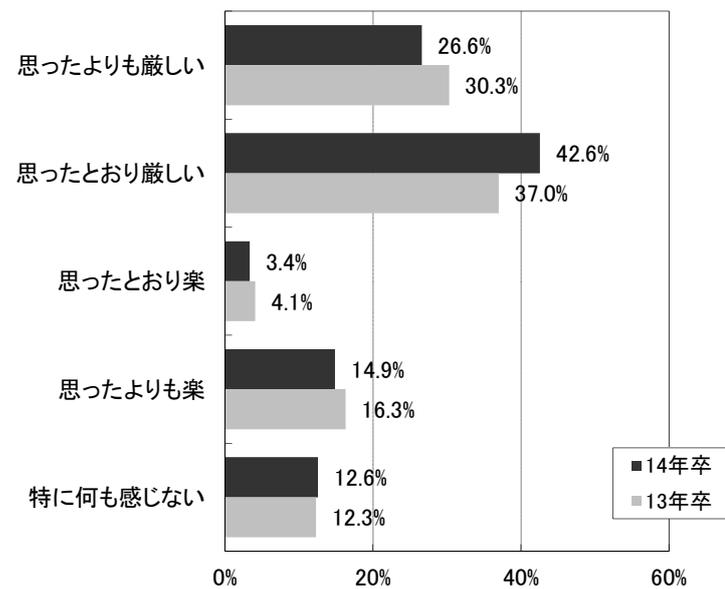
■4: 活動の感触・就職観

内定を取る自信は「(大いに+少し)ある」が前年同月比4.6pt増の57.3%となった。「大いにある」が前月から13.1ptと大幅に増加している。特に理系男子では「大いにある」が44.6%と高い割合となった。実際に内々定を受けた学生は無論のこと、未内定学生でも、選考の進捗を経て自信を深めているようだ。就職活動を始めた時点と現在での活動に対する感触は「思ったとおり厳しい」が42.6%で最も高くなった。その理由としては「採用基準の高さ」が前年比6.0pt増の62.7%と最も割合が高く、自信はあっても現実には厳しさを感じる面もあるようだ。1日のうち就職活動に費やしている平均時間は3.2時間で先月に引き続き減少している。

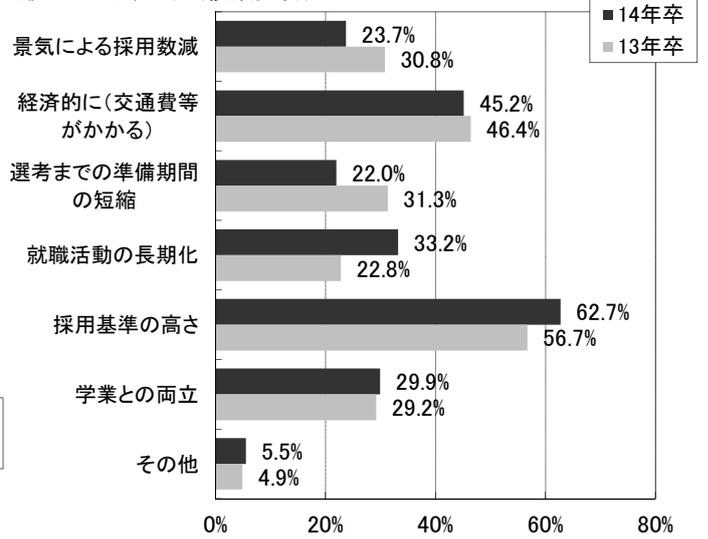
内定を取る自信



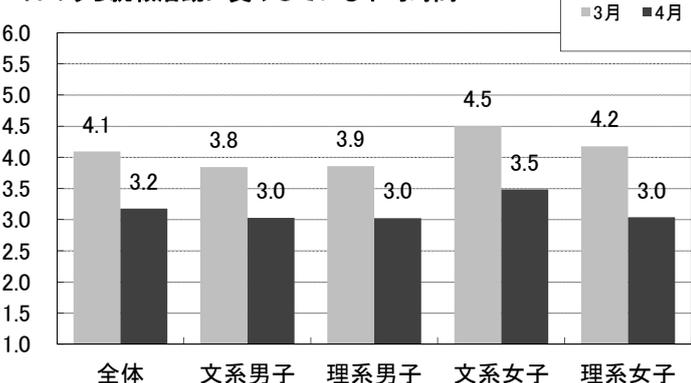
就職活動を始めた時点と現在での活動に対する感触



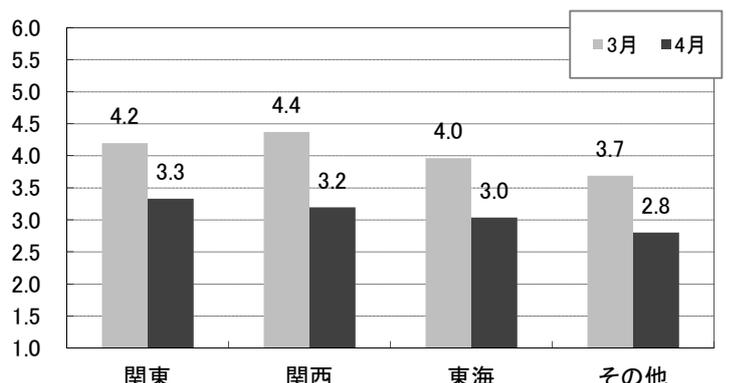
▼以下、「(思ったよりも)+(思ったとおり)厳しい」と回答した方のみ
厳しいと思う理由(複数回答)



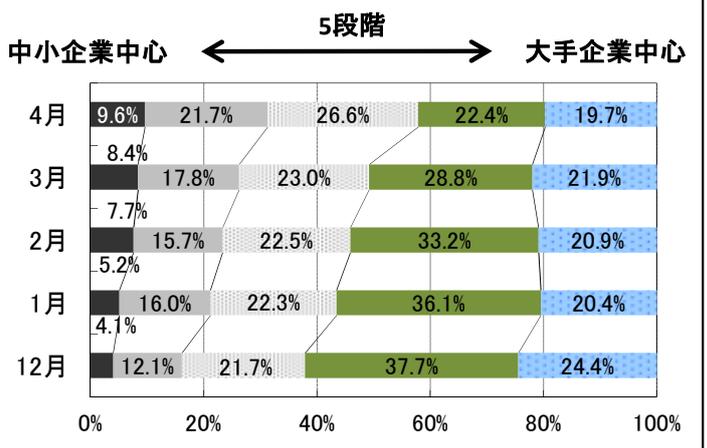
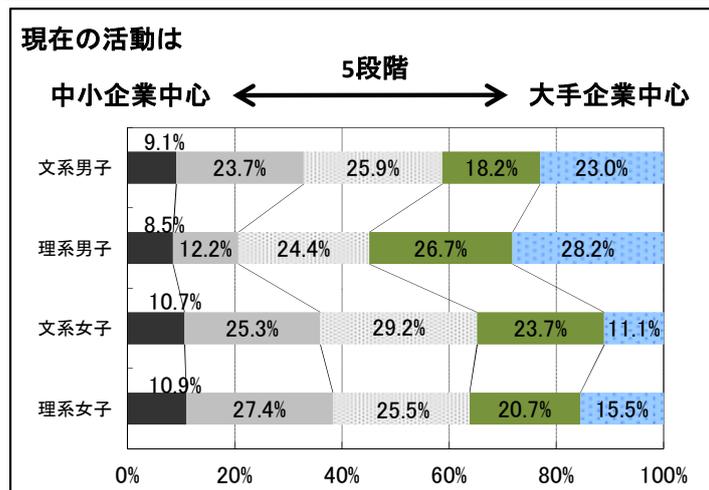
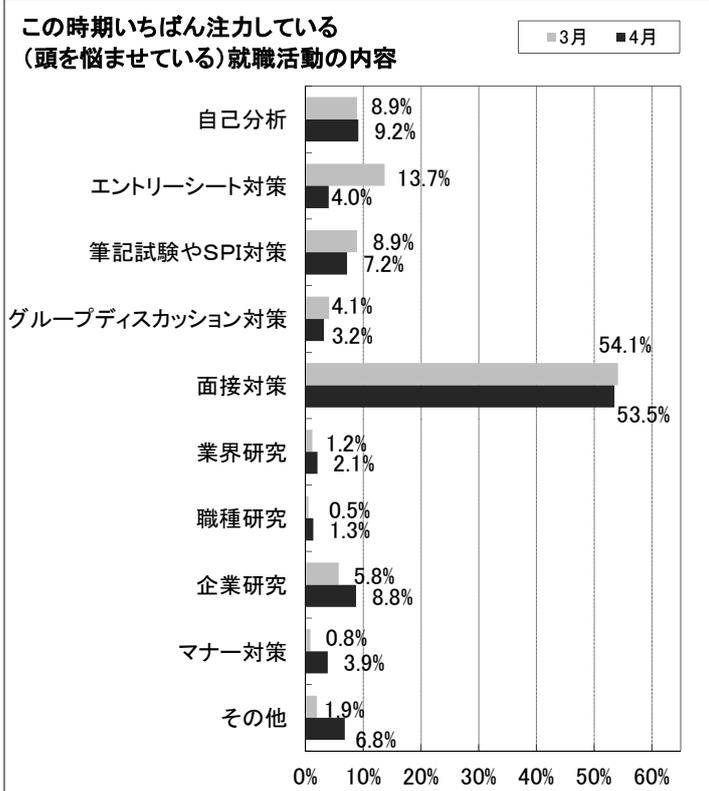
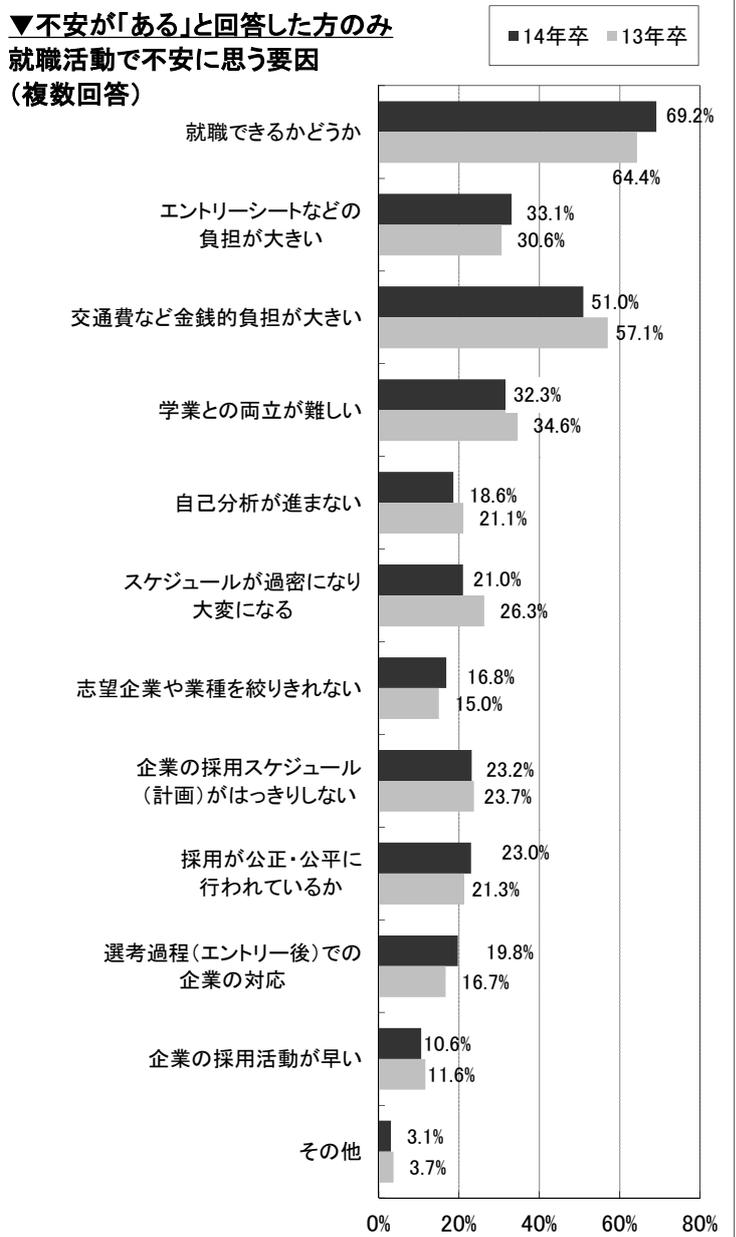
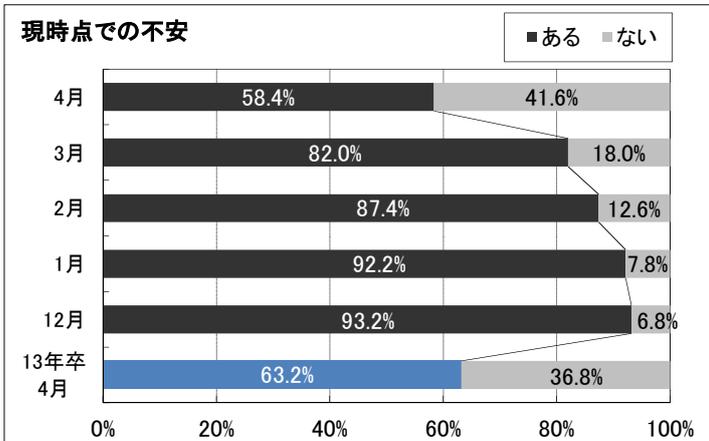
1日のうち就職活動に費やしている平均時間



<地域別>



現時点での不安を聞いてみると「ある」が前月比23.6pt大幅減の58.4%となった。最終選考を経験するなど内定に近づいたり、実際に内々定を受けたりすることで、就職全般に対する不安が減少したと考えられる。一方で不安が「ある」と回答した学生に限ってその要因を聞いてみると、「就職できるかどうか」が前年同月比4.8pt増の69.2%と切迫している様子が窺える。この時期いちばん注力している就職活動の内容では「面接対策」が53.5%と圧倒的に多い。また、「企業研究」が前月比3.0pt増の8.8%とわずかながら増加しているが、選考前の確認や新たな企業へのエントリーなど目的は様々だと思われる。現在の活動の中心は前月までに引き続き徐々に「中小企業中心」とする学生が増えており、「大手企業中心」とする回答が初めて半数を割る結果となった。

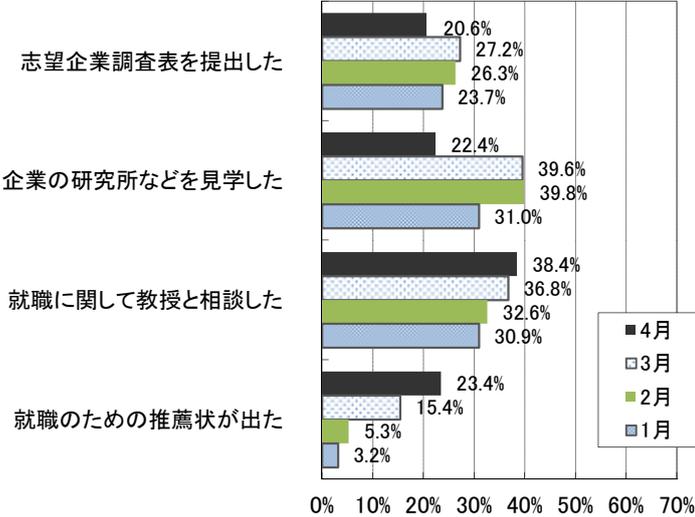


■5:【理系】4月の活動状況

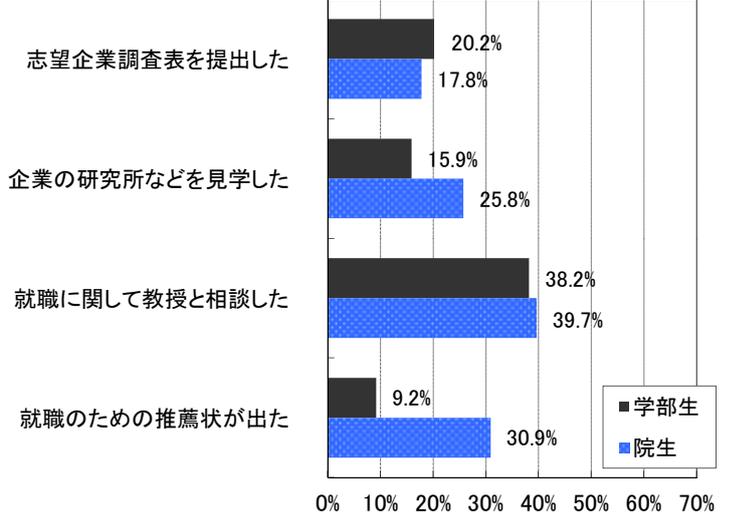
理系学生の活動状況では、「就職に関して教授と相談した」が前月比1.6pt増の38.4%と月を追うごとに増加している。また「就職のための推薦状が出た」の割合も前月比8.0pt増の23.4%となった。特に院生においては30.9%と高く、大手企業の選考開始となる4月は推薦が多く利用される時期であることがわかる。

1日の時間の使い方では「就職活動」が減少し、3月に減少に転じていた「大学での研究」が学部生、院生ともに回復している様子が見受けられる。早めに活動を終了し、研究に専念し始めた学生も少なくないようだ。現在の専攻を就職後も活かしたい割合の平均は学部生で月を追うごとに減少し4.5割となった。学部生は自分の専攻以外の選択肢に視野を広げつつあるのだろうか。院生は内定先が決まり活動を終了した学生が多いせい、前月比0.2割増の4.1割と下げ止まったようだ。

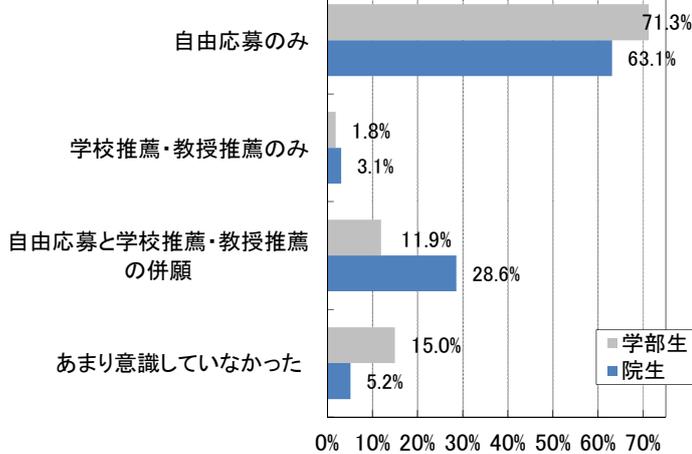
4月理系学生の活動状況(複数回答)



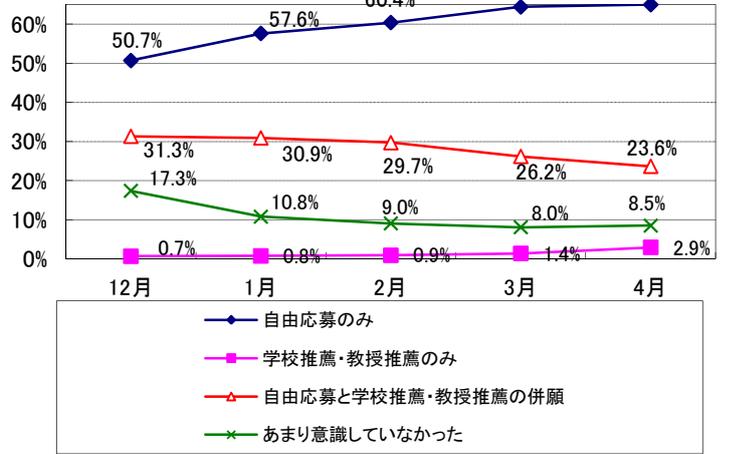
＜学部生/院生別＞



企業への応募方法(4月)

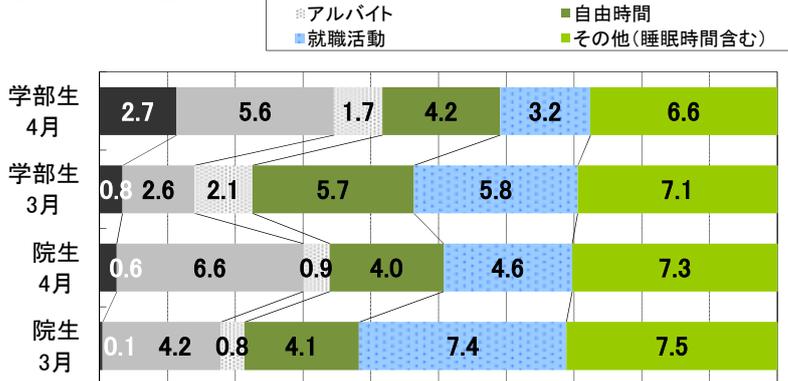


企業への応募方法(12月～)



現時点での1日の時間の使い方(平均)

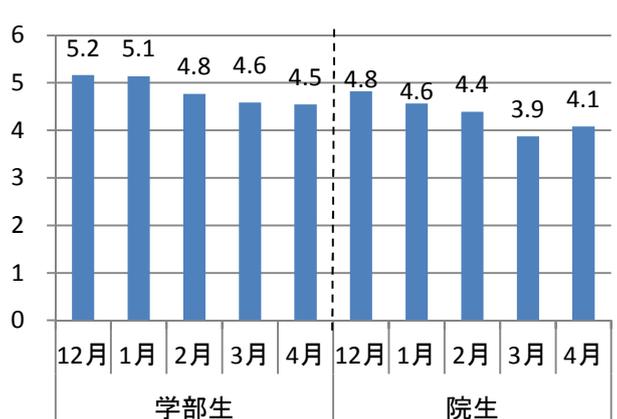
【単位:時間】



※1日の時間の使い方を100%の割合で回答されたものを24時間に換算して表記

現在の専攻を就職後も活かしたい割合(平均)

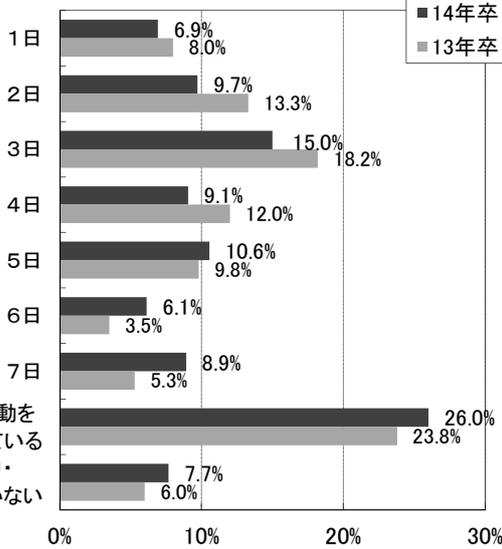
【単位:割】



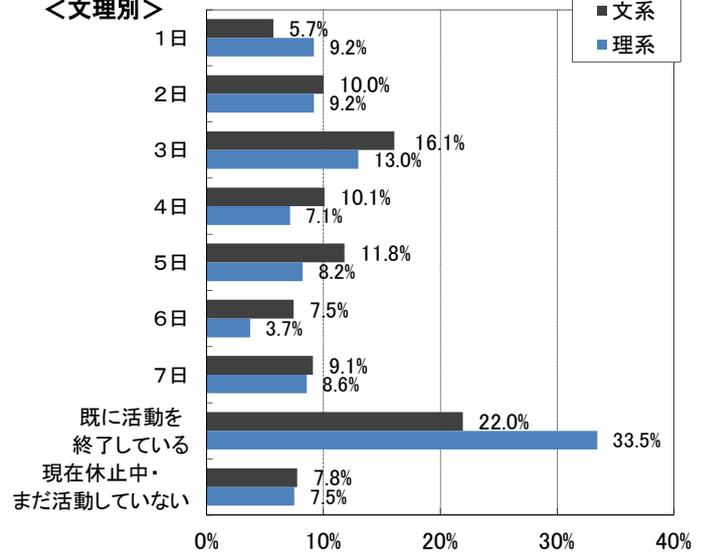
■6: 現在の就職活動とその志向について

1週間のうち就職活動に割く日数は「3日」が15.0%と最も高かったが、「既に活動を終了している+現在休止中+まだ活動していない」が33.7%と3人に1人は現在活動をしていないようだ。一方で「5日」「6日」「7日」がいずれも前年の割合を上回っていることから、活動を継続する学生の活動量は前年に比べて少しずつ増加していることがわかる。活動を継続する学生の中でも、理系学生は1週間の就職活動スケジュールを「余裕がない+やや余裕がない」とする割合が文系よりも15.7%上回っており、学業や研究との両立に苦労しているようだ。今後の活動は「就職サイトを使って」「最終選考に近い方」を優先して進めていく傾向が見られるため、これから母集団を形成する企業は就職サイト上で選考に直結する機会をアピールすることが必要となりそうだ。

1週間のうち就職活動に割く日数

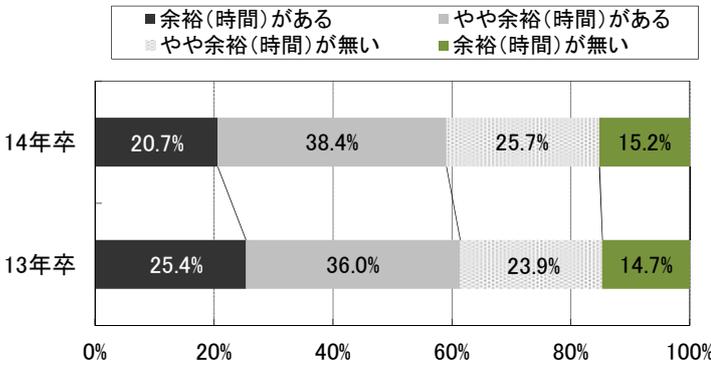


<文理別>

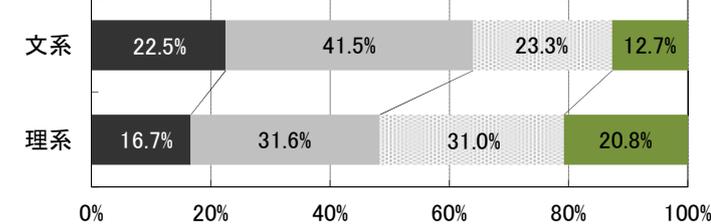


▼以下、「既に関活動を終了している」「現在休止中・まだ活動していない」以外を回答した方のみ

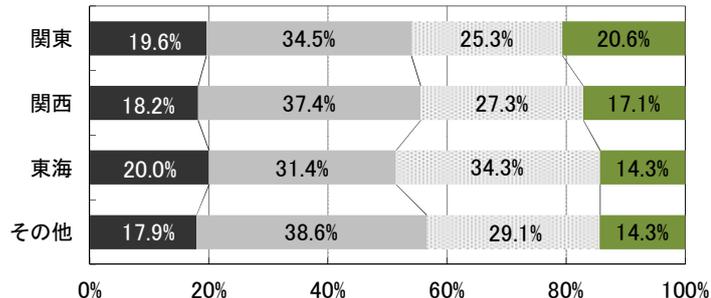
1週間の就職活動スケジュールはどのように感じているか



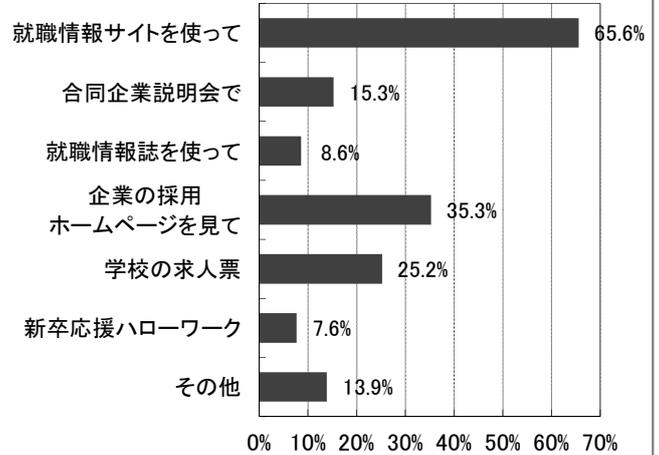
<文理別>



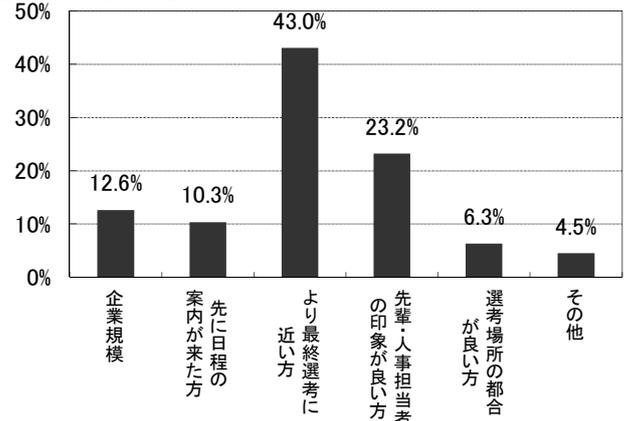
<地域別>

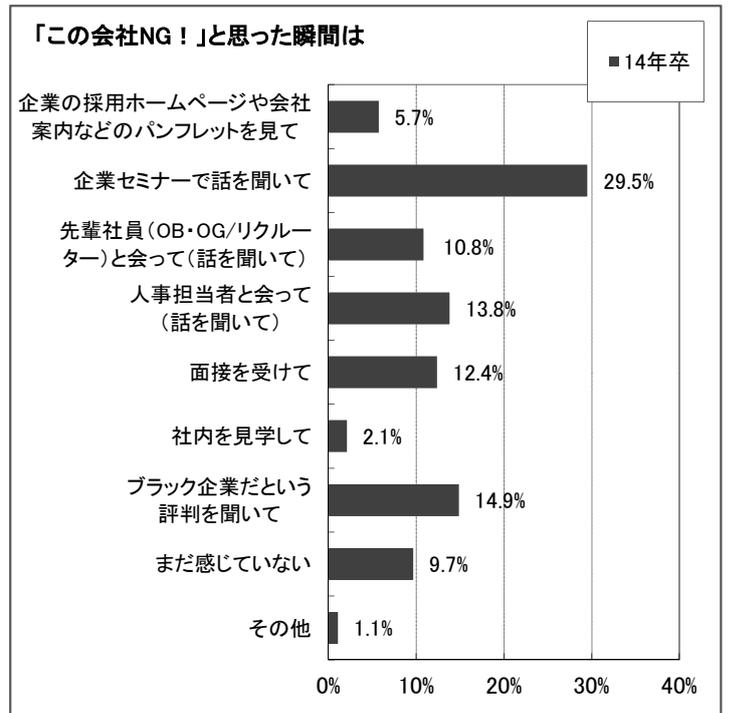
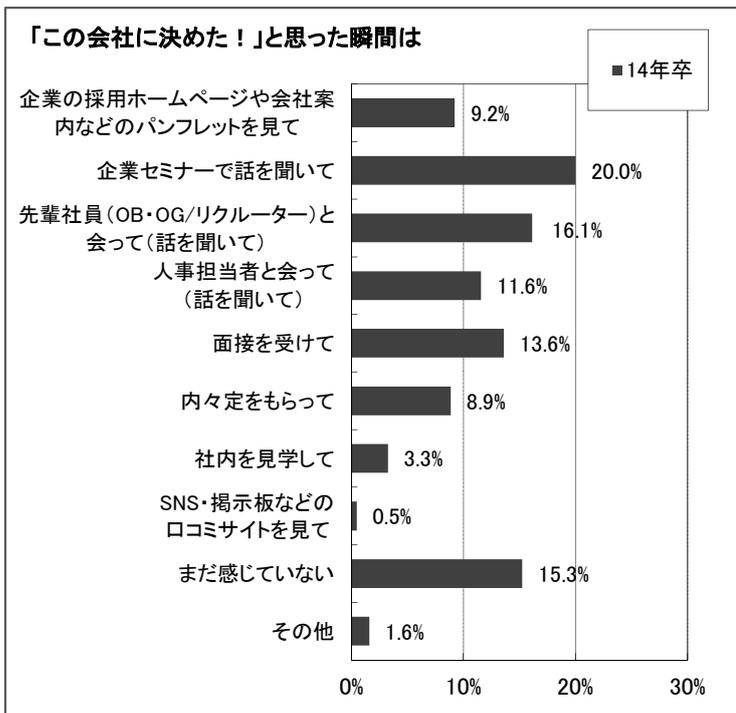


今後企業を探す方法



志望度が同じ企業で予定が重なった場合、何を基準に優先するか





＜この会社に決めたと思った理由＞

【企業セミナーで話を聞いて】

- ・事業のビジョンや会社の雰囲気自分が合っていると感じたから。(文系男子)
- ・話をする先輩の生き活きしているのを見ると惹かれる。(理系男子)

【先輩社員と会って】

- ・より生々しいリアルな話を聞いて、それに共感したから。(理系男子)

【面接を受けて】

- ・自分の思いをしっかりと聞いてくれ、自分自身も話やすかったから。

＜この会社NG!と思った理由＞

【企業セミナーで話を聞いて】

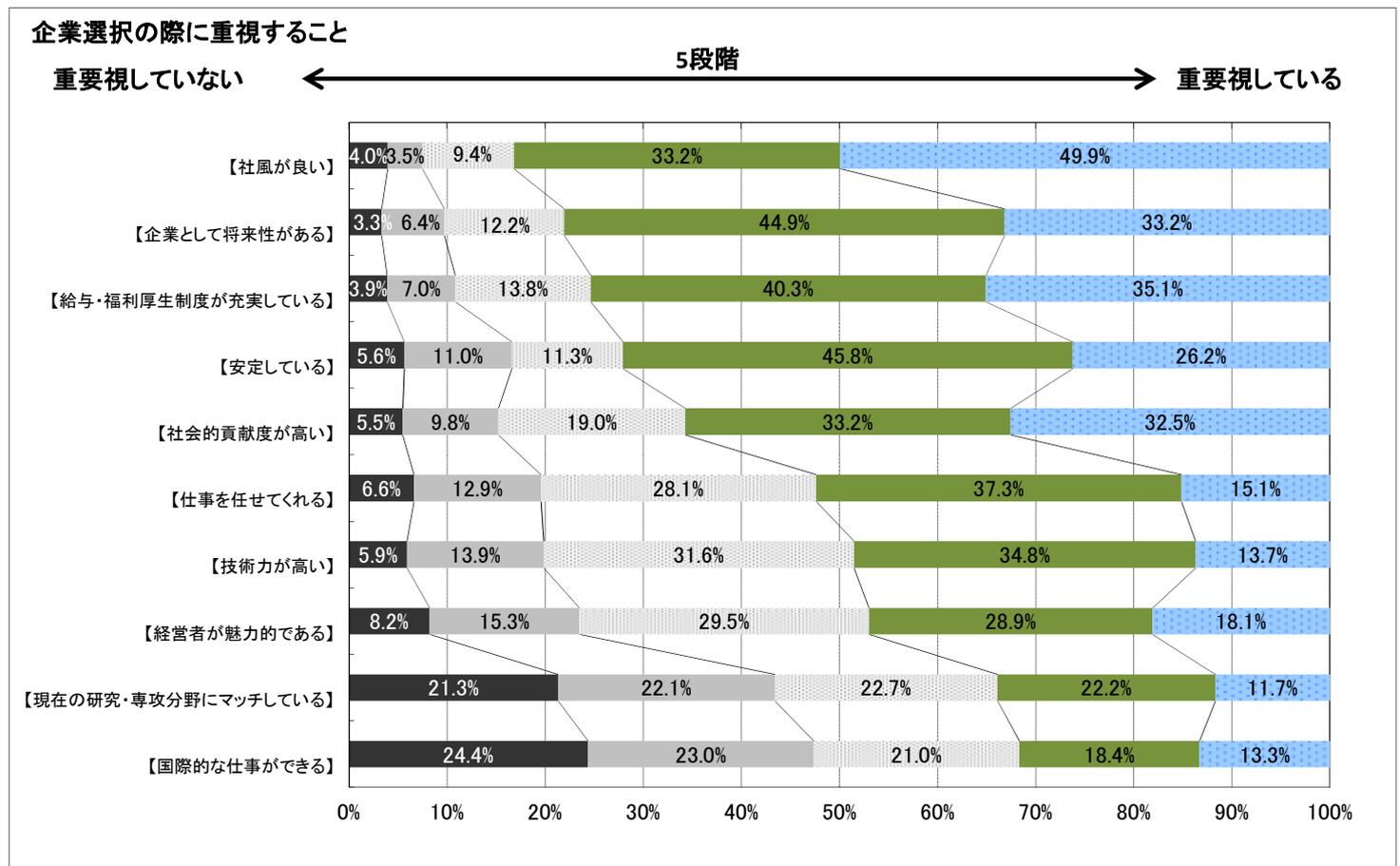
- ・社員の方の「元気」や「笑顔」が無かった(理系男子)
- ・人事の人、社員の方の雰囲気が高圧的だと感じたから。(文系女子)

【ブラック企業だという評判を聞いて】

- ・両親にあそこはよくないと言われたから。(理系女子)
- ・検索でブラック企業とたくさん出てきたため。(文系女子)

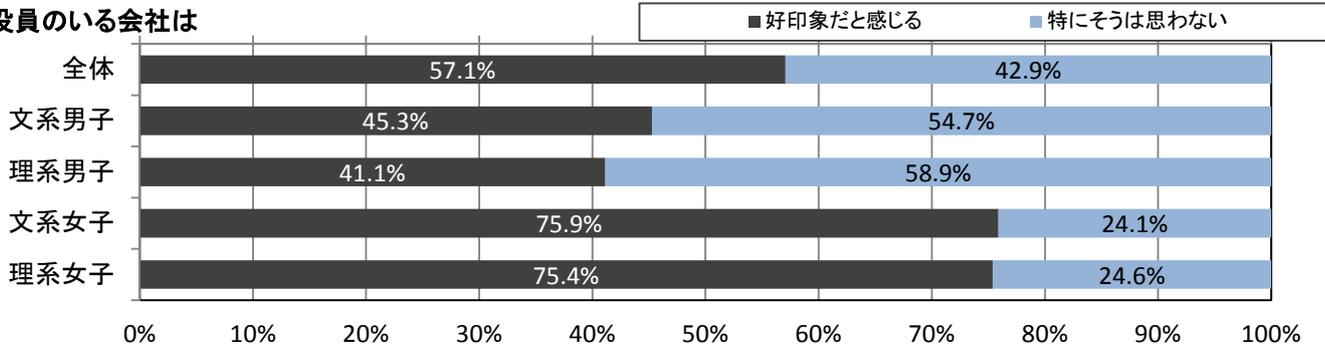
【人事担当者と会って】

- ・覇気がない。疲れてそうな表情だった。(理系女子)

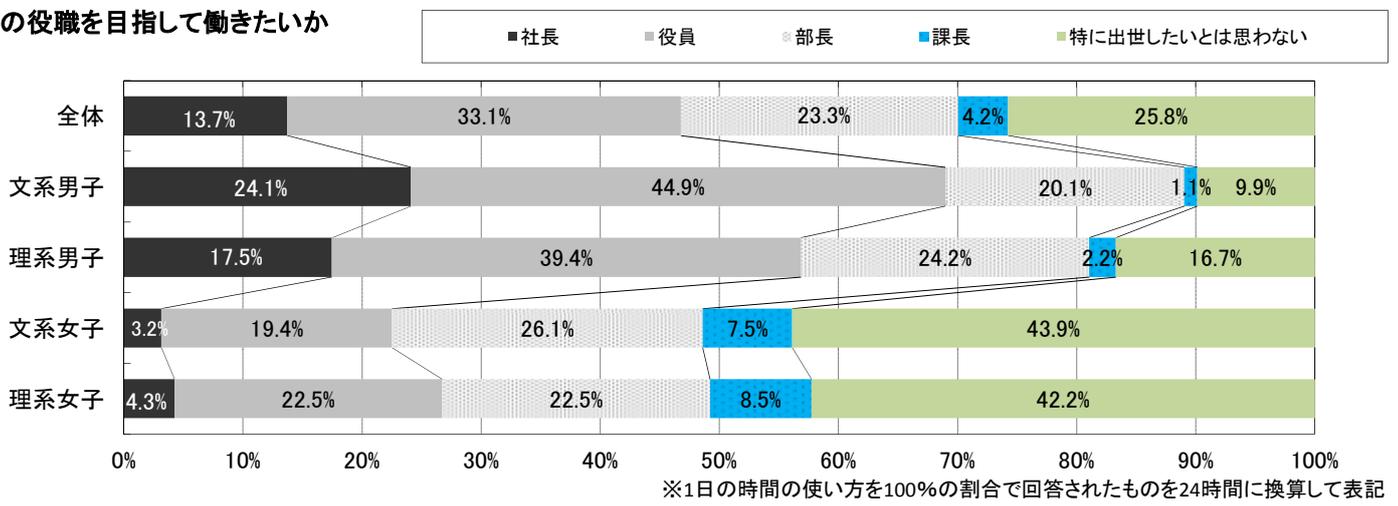


女性役員のいる会社に対する印象を聞いてみると男女ではっきりと差が出た。「好印象だと感じる」割合が文系男子で45.3%、理系男子で41.1%と半数を割っているのに対し、文系女子は75.9%、理系女子は75.4%と4人に3人が「好印象」と回答した。また、どの役職を目指して働きたいかとの問には、文系男子、理系男子はともに「役員」の回答が最も多かった。一方、文系女子、理系女子では「特に出世したいとは思わない」が40%を超えた。女子学生に関しては、女性役員がいる会社に好感を持つものの、役職を目指す割合は低いという結果となった。2016卒からの就職活動開始時期後ろ倒しの話題が昨今多く報道されているが、2014年卒の学生に自分自身に置き換えて答えてもらったところ、「有利になると思う」が7.9%だったのに対し、「不利になると思う」が50.8%と過半数だった。有利または不利になると思う理由についていくつか下記に抜粋したので参照されたい。

女性役員がいる会社は

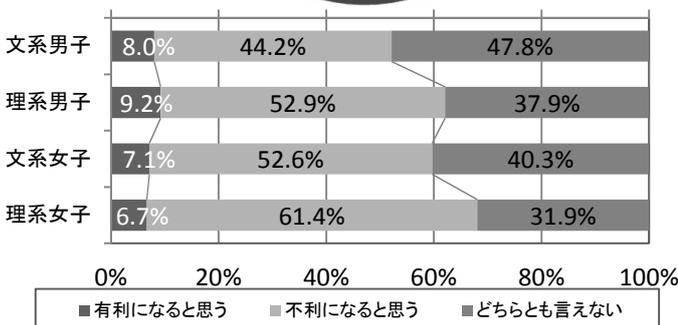
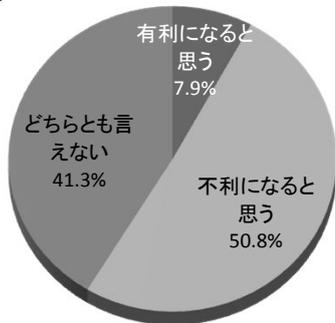


どの役職を目指して働きたいか



特別設問

Q.2016年卒の就活から「3月説明会開始・8月選考開始」に変更になるというニュースが報じられましたが、もしあなた自身の就活がこのスケジュールで行われた場合、現在の「12月説明会開始・4月選考開始」に比べて、有利になると思いますか？



＜有利になると思う理由＞

- ・もう少し学業に時間を割きたかったので、ちょうど良いから。(理系女子)
- ・自己分析をする時間が増えるから。(文系男子)
- ・理系の場合就職活動時期が遅い方が学会等に参加しやすくなり、実績を残せるから。(理系女子)

＜不利になると思う理由＞

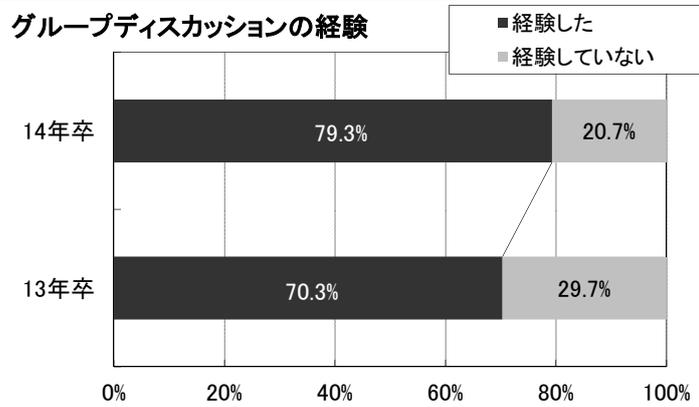
- ・選考が遅くなれば、大企業に落ちたあと、中小企業へ行く時間が少なくなる。(文系男子)
- ・卒業研究の追い込みの時期と重なるので、準備が間に合わないから。(理系男子)
- ・スケジュールが現在よりも過密になって、さらに内定までの時期が短くなり不安になりやすいと思うから。(文系女子)
- ・内定をもらってから考える時間も必要だと思うから。(理系女子)

■7: グループディスカッションについて

グループディスカッションを経験した割合は、前年比9.0pt増の79.3%となった。

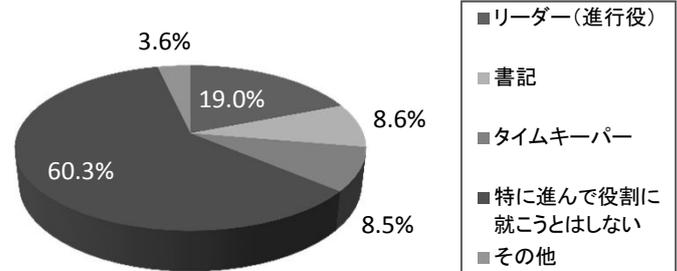
選考でグループディスカッションを行うことに対する印象を聞いてみると、「特に印象を持たず」が過半数を占めたが、「良い印象」が24.2%、「悪い印象」が24.0%と意見が二分した。いい印象を持った理由としては「他の学生と意見交換ができて刺激になるから」が理系男子で38.8%、理系女子で49.0%と最も高く、文系男子は「単純に楽しいから」が29.8%と最も高かった。悪い印象を持った理由としては「判断基準が不明確だから」が59.0%と最も高く、「同じチームになった人に左右されてしまうから」が26.1%と続いた。

グループディスカッションで一番心掛けていることを聞いてみると「人の話をしっかり聞くこと」が前年同様過半数を占めており、受験姿勢は多くの学生で共通しているようだ。

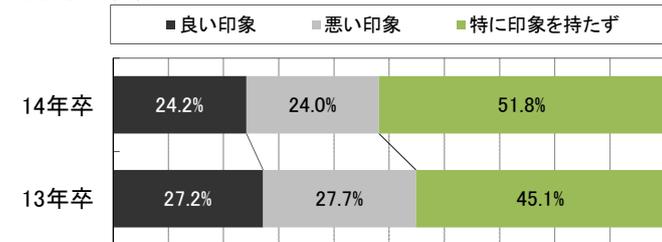


▼以下、「経験した」方のみ

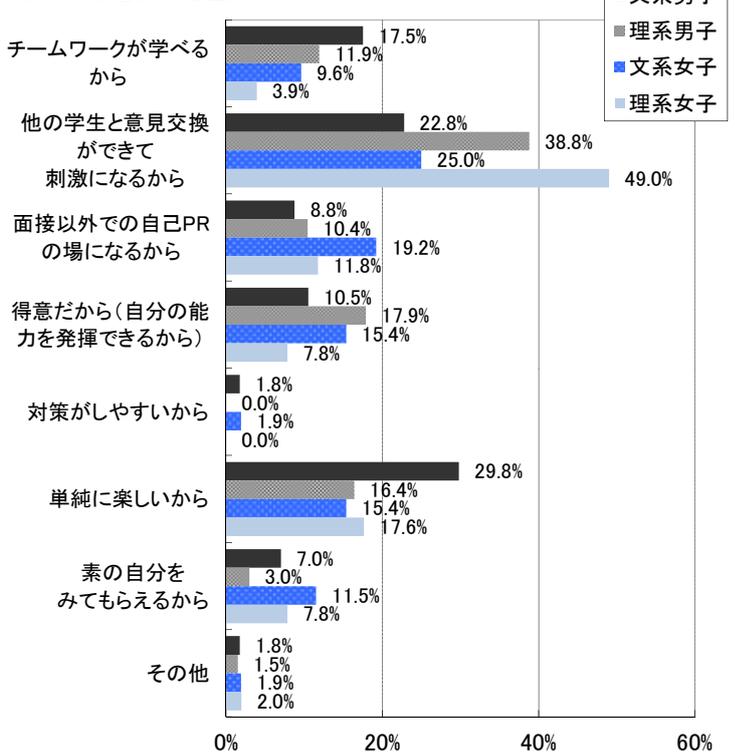
グループディスカッションで主に希望する役割



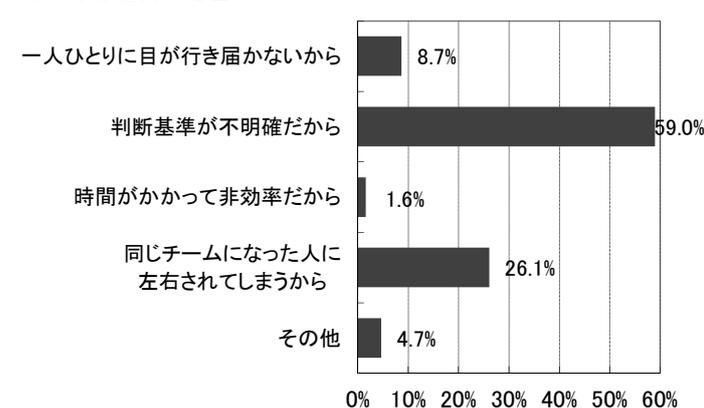
選考でグループディスカッションを行うことに対する印象



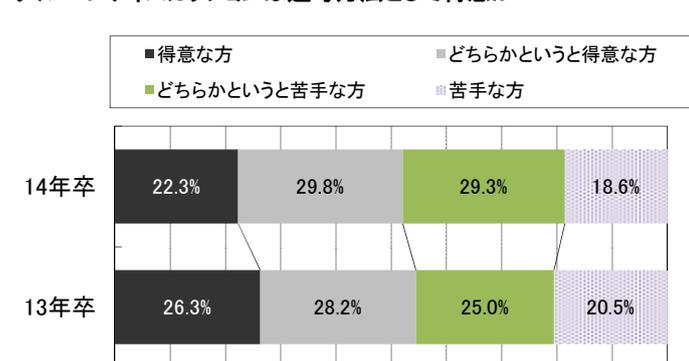
良い印象を持った理由



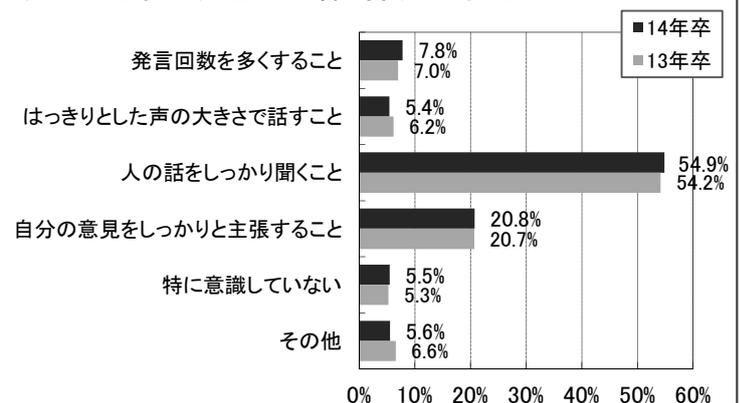
悪い印象を持った理由



グループディスカッションは選考方法として得意か



グループディスカッションで一番心掛けていること



■8: 適性検査・能力検査について

適性検査・能力検査について、＜紙＞と＜WEB＞に分けて聞いてみた。受験経験の有無では「ある」と回答した割合が＜紙＞で前年比4.5pt増の85.1%、＜WEB＞で前年比6.2pt増の87.7%といずれも増加した。受験時期について聞いてみると「3月前半」が最も高く、＜WEB＞で65.9%、＜紙＞で51.2%だった。＜WEB＞では前年よりも早期に受験した割合が高くなっていることから、受験機会は前倒しの傾向にあったようだ。受験・通過した社数については＜WEB＞が＜紙＞の2倍近くとなった。地域別でみると「その他」エリアの社数が少ないことから、＜WEB＞の適性検査・能力検査は都心の企業を中心に多く実施されていたと思われる。

